

○田中しゅんすけ

それでは、初歩的なことを質問させていただきます。

先ほど活動量計が 3,000 円というご答弁があったんですけども、この活動量計というのは、裏面にある予算額の中で設備経費で 1,312 万円、そもそもこれは貸与なんですか。タニタから提供していただいて、お渡しするのか、それともタニタから購入してやるのか、そこら辺をまず教えてください。

○健康推進課長

資料の記載のところでは、設備経費ではなくて事業経費のほうに含まれております。それで活動量計は区のほうで一たん買い取りまして、それに参加者の方に配布するというので、貸与するものではありませんので、プログラムが終わった後はご自身で使い続けることが可能になります。

○田中しゅんすけ

そうすると 3,000 円で買い取って、定価 3,000 円とおっしゃっていたので、3,000 円で買い取って、この参加費 3,000 円は登録料とかいろいろとあると思うんですけども、それと含めてお渡しをするという感覚でよろしいですね。そうすると、健康福祉センターとかに計測機器、体組成計、血圧計という、健康福祉センターに血圧計は前からあったと思うんですけども、体組成計というのも前からあったものなのか、それともこの事業にあわせて設置をしていたものか。それと設置のスケジュールで、機器設置はどういう機器を設置したのか、ちょっと教えていただきたい。

○健康推進課長

体組成計はもともと健康福祉センターにはあったものと思いますけれども、今回はそうではなくて、このプロジェクト用に新しく買いそろえたものでございます。実際に台の上に乗かってグリップを握ると、私もよくわからないんですけども、体に電流が回って、それでいろいろと体脂肪とか筋肉量とか骨の量とか、そういったかなり細かい、これは私データなのでちょっとお見せできない恥ずかしいものなんですけれども、こういったものが出てきまして、かなりいろいろなデータが表示されるものになっております。

○長寿社会推進課長

今の答弁の訂正を一部いたします。体組成計というものはもともとはごさい

ませんでした。ただし、健康管理の一環として体重計と血圧計は各健康福祉センターに置いてございます。今回、体組成計については新規に設置したものでございます。

○田中しゅんすけ

体組成計はどこに設置をしたのかということと、それから単価1台当たり、それだけ乗って電流が走って全部の自分の脂肪までわかるようなそういうとても精密な機械でしょうからすごく高価なんだろうなというふうに思いますし、それはもちろんタニタ製なんだろうと思うんですけども、そこをまず教えてください。

○健康推進課長

機器は非常に高価なものでして、購入しますと70万円とか80万円とかかかるんですけども、今回はリース契約をしております。もちろんタニタ製でございます。体組成計と血圧計、あとリーダーライター、これはピッて送信する機械、これが2台とプリンターを含めて月約1万9,000円程度でリースをしております。設置場所については、なるべく玄関に近いところ、気軽にはかれるというところで玄関に近いところに置いてあるんですけども、一方、体重計とかその辺をはかりますので、余り職員が目、この辺に置いてあるとなかなかはかりにくいと思いますので、入り口の近くで職員目の届く範囲には置いてあるんですけども、余り気にならない感じではかれるような場所に設置しております。

○田中しゅんすけ

そうしますと健康福祉センターだけに設置している。各高島平を除く健康福祉センターに設置がしてあるということでしょうか。

○健康推進課長

健康福祉センターのほかに体育館が4つ体育館、高島平温水プール、あと先ほどの大山のカフェに今年度は合計11台設置してございます。

○田中しゅんすけ

あとで資料で結構ですけども、今ご説明いただいた経費、ざっくりなんで余りよくわからないんですよ。ですから、内訳を明記していただいたのを資料でいただきたいんですけども、大丈夫でしょうか。

○健康推進課長

承知しました。後ほど資料で提出させていただきます。

○田中しゅんすけ

よろしく願いいたします。それで先ほどアクティブコースが73名、スタンダードコースに107名の申し込みがあったということですが、これも申し込みの先ほど課長から年代別でそれぞれの比率を教えてくださいなんですけれども、これも資料でいただきたいのと、それから男女比がおわかりになると思いますので、その男女比と、それからこのコースで障がい者の方の申し込みがあったかどうかを教えてください。

○スポーツ振興課長

資料は後ほど提出したいと思います。今回、障がい者の方の参加はございました。

○田中しゅんすけ

それは資料と一緒に、障がい者の方がどちらかのコースに参加しましたということはお伝えいただけるのでしょうか。

○スポーツ振興課長

スタンダードコースにご参加いただけまして、この方は視覚の職害がある方ということで、介助者と一緒に参加いただきました。

○田中しゅんすけ

それでは、資料のほうはよろしく願いいたします。

それで今後、健康増進コートと国保生活習慣病予防コース、こちらのほうはこれからということで、まさしくこれからこの委員会の活動方針の後半の部分の一番大切な部分になってくると思うんですけれども、スポーツを活用した介護予防、それからコミュニティの活性化ということで、一番これが、もちろんこの前段の部分も大事なんですけれども、また力を入れて取り組んでいただくことなのかなということだと思っているんですよ。

健康寿命の延伸はこれから一番大切なことで、これからの高齢化社会に向けて、この部分をどういうふうに取り上げて、この事業をうまく皆さんに参加をしていただいて、いかに病気を予防していただくかということの主眼に置いていかなければいけないというふうに思っているんですけれども、その中で先ほどもありましたけれども、非常に私も事あるごとに言っているんですけれども、

高齢化が進むということがわかっていながら、高齢者の方に今後こういうプログラムを積極的に参加していただいて、病気を未病で予防していただくということを思っているながら、やるアクセスの仕方というのはPCを使ってということもいつも言うんですけれども、それって本当に長続きするかどうか、とても大切なところで、長続きしていただかないと、とてもこの事業をこの予算をかけて始めている意味がないですし、長続きをいかにさせるかというところで、PCというハードルを立てちゃうから、いつもいつもその先に結局、結果的に事業の内容はいいんですよ、ただ、それをしっかりと事業化して行って、ランニングしていくことができなくなっちゃう。結局、参加者もこういう複雑な手続、また自分でやらなければいけないことがあるんだったら、やっぱり今まででいいわというふうな形になっちゃうんですけれども、その部分で何か改良を加えている点とか、今までのご説明を聞いているのだと、今まで出てきたのと全く同じようなやり方で、そこに機器が変わったとか、そういうことだけなんですよ。けれども、やり方自体は全く変わっていないので、その手法をこれからこういう部分は改善して、参加した方が継続して、健康保持と書いてありますけれども、健康保持のために持続してこの事業をきっかけに健康増進を進めていただくということに何か取り組んでいращやることがあれば教えていただきたい。

○健康推進課長

おっしゃることは、恐らく誰もが思っていることで、当然タニタもそういうふうに思っていて、本当に使いやすいようなものに進化しているとは思いますが。これを本当にリーダーに乗せるだけで送信ができるというふうなもので、体組成計についても乗っかってボタンを押すだけで全てはかれるというふうに、機器自身も進化している部分はあって、高齢者の方でも使いやすいものになっているとは思いますが、おっしゃるように、機器自体について触ることすら敬遠してしまう。私自身もスマートフォン持っていませんけれども、そういう機器自身を触るのもという方もいращやると思いますが。その辺はどういうことで今後そういう機器の使用が苦手な方に参加していただけるのかというのは、タニタとも一緒に考えていきたいというふうに思っております。

○長寿社会推進課長

昨年、地域保健福祉計画を立てるに当たりまして、64歳までの方と65歳以上の方のアンケート調査を行いました。その中で私どもびっくりしたのは、いわゆるデジタルデバイドという言葉があるじゃないですか。要は高齢者はそういった高精密な情報機器には触れないということがギャップになっていると

いうところで、実際に調べましたら高齢者のうち携帯電話所有者は7割を超えていました。そのうちスマートフォンが16%です。今健康推進課長が申しましたように、私もスマートフォンは使いません。逆転現象、パソコンを普通に使っているという方も2割以上いらっしゃいました。そういったところでは一つ、私どもも視点を変えていかなければならないのではないかなということでした。

ただ、現の高齢者の方、そういったものにハードルを感じちゃっている方に対してのアプローチとしましては、体組成計は区内の健康福祉センター、体育施設等々に置いてはおるんですけども、これをどうやって広げていくかというのが一つのポイントになってくると思うんです。しかも、そこには小さいプリンタがついていまして、昔の保健所の血圧をはかる、ジューッと出てきて結果が出てくる。同じように体組成も出てきます。そういったものを定期的に来ていただければかかっていただくことで、それを自分のノートなりファイルにペタペタと張っていただけて定時的に管理していただく。ちょっとアナログな手法ですけども、そういった形もありますので、そういった促し方もしていきたいと思います。また拠点の拡大というのはこれから必要になってくると思うので、そこら辺につきましては、各関係機関やあとは業界団体等にも働きかけをして、無理のないところで広げていけるような手法を考えてまいりたいと思っています。

○田中しゅんすけ

ぜひよろしく願いいたします。進化したインフラストラクチャーの整備も必要ですけども、アナログ計って一番また元に戻ってきてとても大切で、これから地域包括ケアシステムを考えていく中でも、最終的には皆さんアナログ計でしか戻って来れないような気がするのです。ですので超高齢化に向けて、アナログ計にもう一度、別にシフトしていい部分というのは残してやってほしいと思っていますので、ぜひその部分を研究していただいて、発信をしていただきたいというふうに思っています。

それと私ちょっと記憶にあったんですけども、浴場組合の事業で確か銭湯でマラソンみたいな、健康推進課でバックアップしていただいていたので、そのときに冊子をちゃんとつくってもらって、お風呂屋さんにも血圧計までちゃんと設置してやったのに、今回の事業に全く入っていませんでした。ぜひやった事業を、多分そんなに周知の仕方を今のタニタのやり方みたいに、これだけ大きくやれてないから、なかなか周知も徹底できなかったんだと思うんですけども、結果、タニタがテレビとかを使って発信していただいているんですから、せっかく板橋区では多分、十数年前にそういう取り組みをやっていたんですか

ら、それをもう一回ちゃんと拾ってきて、ここもやっていたから、これも一緒にタイアップしましょうねという考え方はとらなかったのかなと思っているんですけれども、いかがですか。

○長寿社会推進課長

浴場組合につきましては、敬老入浴券の関係で私ども、おつき合いがございまして、実はもう去年の段階でこのお話をしてございます。ただ、浴場組合さんは大きな機械、金のかかる機械を入れるに当たっては結構難しい部分があるので、これをどうやって事業化してやっていくのかというところで、まずは今、健康推進課長のほうで申しましたように、リースにかけると月1万9,000円かかる。じゃ、これをどうやって区の健康推進の事業として、また特に銭湯はお年寄りの利用が多いので、お年寄りの健康づくりに役立てられるものかどうかというのは、ただいま浴場組合のほうと話し合いをしているところでございます。ゆくゆくは各銭湯に同じような機器を置いて気軽に、当然銭湯ですから裸になりますので正確なものがはかれます。そういったところではかなり精度の高い健康管理ができるのかなとも思っておりますので、そこら辺はぜひ進めていきたいと思っております。

また、区内の浴場組合につきましては、おとしより保健福祉センターの所管でしたが、介護予防のための体操をやって、そのあと風呂に入るという事業もやってございます。そういったところとうまくリンクしていかれるように、先ほど田中委員のおっしゃったマラソンの後にお風呂に入ってさっぱりしましょうという事業、確かにやったことがございまして、そこに関する事業を展開してまいりました。なかなかちょっと銭湯自身がマラソンコースに近くないところもございまして難しいところはあったんですが、ただ、各種の事業を通じて各地域内の銭湯の認知度のアップと、それから区としての事業展開とのタイアップもあわせて進めていかれればと思っております。

○田中しゅんすけ

多分、課長、私、認識が違うんですけれども、銭湯のマラソンコースが銭湯が近くなかったんじゃないかと、あれって銭湯ごとに自分の地域はここですから、皆さんここを回ったらということで別にコースはないんですよ。その銭湯ごとにコースを多分ご自身で考えていただいたりとか設置してあったので、私が申し上げているのは、確かに体組成計で一体化した事業も必要だけれども、おっしゃったように、介護予防体操もしているんだから、別に機械導入をすることではなくて、今までやってきた事業と含めて、全く同じことをやらないとこの事業ではないわけではないでしょう。だから、それは枝葉の中の事業の中で、

そういう今まであったやつを生かしながら、しっかりと健康増進とそれから介護予防に努めていただきたい。だから、その手法は結局、この計器を入れるとこれだけお金かかりますよとか、リース代がかかりますよ、また負担がかかっちゃうわけですから、そういうことを一体化することを目指すのではなくて、いろいろな角度をしっかりと担保した上で、最終的には健康プロジェクトだったということで積み上げていっていただきたいなと思うんですけども、いかがですか。

○長寿社会推進課長

委員のお申し出につきましては、ハードの整備という部分もありますけれども、そういったソフト的な連携というのも重要な部分であると思います。これは庁内も含めまして、関係の機関、団体とも検討して、よりよいものにしていきたいと思っております。